

開発教育とは

1. 開発教育という名称

Development Education / (De - envelop) (封を開いて中身を取り出す)

2. 開発教育目的と内容

◆目的：「何をめざしているのか」

教育や学習を通じて「共に生きることのできる公正な地球社会」の実現に参加していくこと。

◆内容：「何を学ぶのか」

- ①基本的人権および文化の多様性（人権を尊重し、さまざまな文化・生活から学ぶ）
- ②世界の開発問題の現状と原因（国内外の格差や貧困の現状とその背景を学ぶ）
- ③地球的諸問題（開発・環境・人権・平和等）の相互関連性
- ④世界と私たちのつながり（衣・食・住など身近なところからつながりに気づく）
- ⑤私たちの取り組み（私たちにできること）

3. 始まりと展開

1960年代～ 欧米のNGOによる海外援助広報・募金活動

1970年代～ 貧困や南北問題の解決に向けた活動

1980年代～ 日本での展開「国際協力教育」

1982年開発教育協議会設立・外務省による欧米への視察

1990年代～ 「開発」のありかたを考える教育活動

地球規模の諸問題（開発・人権・環境・平和・女性など）に対する教育の取り組み

2000年代～ 足もとから「自分」のこととして「持続可能な社会」・「公正な社会」をめざす教育活動

4. 手法：参加型学習

参加者が単に受け手や聞き手としてだけでなく、その学習過程に主体的・協力的に参加しながら、問題を理解・学習し、問題解決に向けた社会参加をめざす学習の理念と方法。

- 知る・感じる・気づく ⇒ 考える・理解する ⇒ 行動（変容）する ⇒ 知る・感じる・気づく
- 目標と方法の一致（方法はメッセージを持つ）
- 問題解決・社会創造への参加

5. 実践の場とプログラム例

- ①NGO・市民団体で： 学習会・研修会・市民講座・キャンペーン・スタディツアー・フェアトレードなど
- ②学校で： 教科学習・「総合的な学習の時間」・課外活動・修学旅行など
- ③大学で： 授業・公開講座・ゼミ合宿・ゼミ旅行・サークル活動など
- ④家庭で： マスコミ報道や食卓の中の輸入食材についての話し合いなど
- ⑤地域で： 青少年活動・ボランティア活動・成人教育・生涯学習など
- ⑥その他： 各種研修（教員研修・企業研修・行政機関の職員研修など）

■参考文献：

『開発教育ってなあに？開発教育Q&A集』（DEAR、2004） 『開発教育実践ハンドブック』（DEAR、2003）
『地域から描くこれからの開発教育』（新評論、2008） 『国際協力と開発教育』（明石書店、2008）

（特活）開発教育協会／DEAR

Email: main@dear.or.jp web:http://www.dear.or.jp

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41-3F TEL : 03-5844-3630 FAX : 03-3818-5940

